

2023/2024 シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方

(一般社団法人日本感染症学会)

2022/2023 シーズンのインフルエンザは、定点報告が 1 を下回らないうちに、新しいシーズンに入り患者数が増加しており、「今までに例を見ない状況」となっています。

今年は

- ▽例年の流行しやすい時期に限らず流行
- ▽規模も大きくなる可能性がある
- ▽新型コロナとの当時流行が懸念される



ことから、**インフルエンザワクチンの接種を推奨する**

としています。2020年以降、インフルエンザの大きな流行がなかったことから子どもや高齢者を中心に抗体の量が減って感染しやすい状態の人が増えている可能性があります。

インフルエンザの感染予防に努めましょう。



ワクチンの効果は絶対的なものではないため、咳エチケット、手指消毒、手洗い、マスク着用など、ワクチン接種に加えて適切な予防策を重ねて実施していくことが重要です。



これまで3年間、年末年始に新型コロナは流行しています

県内外に移動する機会も増える年末年始です。インフルエンザと同時に新型コロナの流行にもさらに注意して過ごしましょう。

1月～2月は「はたちの献血」キャンペーン月間です



厚生労働省、都道府県及び日本赤十字社は、献血者が減少しがちな冬期において血液製剤の安定供給を確保するため、「**はたちの献血**」キャンペーンが実施されています。新たに成人を迎える「はたち」の若者を中心として広く献血に関する理解と協力を呼びかけるものです。

献血とは、病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの尊いいのちを救うために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。

本学でも、10月の1ヶ月間、献血協力月間として取り組みが行われ、学内献血が12月に実施されました。

緊急地震速報が発令されたらあなたはどう動く？

11月14日に緊急地震速報の対応行動訓練・防災訓練が行われ

消火活動の実践もありました。



地震の揺れから身を守るには、その場所や状況に合わせてあわてずに行動する必要があります。あわてずに身を守る行動を起こすためには、その場その時に合わせてどのような行動を取るべきかをあらかじめ知り、行動している自分を想像しておくことが大切です。



Q&A

ある日突然、大災害が発生。避難をしている途中で、道端に意識を失い倒れている人を発見しました…。

もしあなたが同じような状況に置かれたら、一体どうすればいいのでしょうか？

倒れている人を発見したら

まずは周りの安全を確保。
大声で助けを呼び、周りと協力して救助を

まわりの人にも声をかけながら

あわてず、まず身の安全を!!

応急手当の一番の目的は、生命を救うこと。「救命処置」を目的とした手当を最先しましょう。

心臓と呼吸が止まってしまうと、時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下します。しかし、もしその場に居合わせた人が心肺蘇生やAEDなどの応急手当を行った場合、手当をしなかった場合に比べて、救命の可能性はおよそ2倍になります。

AED



AEDは、電源を入れると音声ガイドが使い方を順次指示してくれたり、自動的に心臓の状態を診断し、電気ショックの必要の有無を判断してくれたりするため、知識のない人でも救命活動を行うことができます。



本学はソフィアルームに設置されています。